

パブリックコメントで提出された意見等の概要とこれに対する考え方

○件名：ひょうご農林水産ビジョン2030(案)

○意見募集期間：令和2年11月19日～12月9日

○意見等の提出件数：121件(50名)

パブリックコメントの概要と県の考え方(農業関連)

項目等	意見等の概要	件数	県の考え方
1 第2章 農林水産ビジョン2025に基づく取組の評価	法人経営体数の目標達成に向けて実施した取組について「セミナー等」となっているが、R2から相談会を中心に開催しているため、「セミナー、相談会等」に修正した方が良い。	1	「ご意見を反映しました」 ご意見を踏まえ、本文6ページに次の通り記述を追加しました。 「…、セミナーや相談会等により法人化への意識付け・啓発に取り組む必要があります。」
2 第5章 農林水産ビジョン2030のめざす姿	兵庫県が住み心地の良い子育てに適した所であることを願って、先ず食の安全として、豊岡市をモデルに、各市に安全、良質、美味なコメ作りの推進をしてほしい。それにより、農業の発展につながると考える。	1	「既に盛り込み済みです」 豊岡市をモデルにした安全、良質、美味なコメづくりについては、本文23ページに記載しているとおり、コウノトリ育む農法の実践による高付加価値化を経営モデルのポイントのひとつとして示しています。
3 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	2030年の展望(農業分野)について、県内の各地域で生産されている農作物のブランド化を推奨したり、競争率を上げて品質向上を促したりすることはできないか。	1	「既に盛り込み済みです」 農作物のブランド化や競争力の向上は、本文69ページに記載しているように、各産品が持つ優位性(魅力)を明確にすることなどにより、付加価値を高め、国内・海外市場をターゲットに県産農林水産物の流通・販売の拡大を推進します。
4 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	現行ビジョンでR7の目標数が400人となっているが、少子高齢化による生産年齢人口の減少が続く中で、県ではH27の311名をピークに4年連続で減少し、300人を割り込んでいる。 新規就農者数の目標を300人に戻し、円滑な新規就農、早期経営安定への支援や定着率の向上など新規就農者の質的向上を図ることが必要。	1	「既に盛り込み済みです」 新規就農者数の目標は、本文54ページに記載しているように300人としています。
5 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	農業法人等への若者の雇用就農を促進し、数年後に社長等や地元の協力、支援によりその地域での独立就農を実現するというパターンを増やす必要がある。	1	「既に盛り込み済みです」 就農促進については、本文48ページに記載しているように、県内農業法人でのインターンシップの実施や、親方農家のマッチング、地域への溶け込みのサポート、施設等導入時の初期投資の軽減など、就農希望段階から就農後の定着まで一貫した支援を引き続き実施することとしています。
6 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	2030ビジョンでは、新規就農者数の目標を300人/年にしてはどうか。	1	「既に盛り込み済みです」 新規就農者数の目標は、本文54ページに記載しているように300人としています。
7 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	「施策の取り組み状況」内の目標とする数値において、新規就農者数の達成状況が思わしくない。新規就農者数を伸ばす目的が次世代の農業分野の担い手を確保することであるならば、若年層の離農者対策も同時に行っていく必要がある。農業への定着率と新規を比較した総合的な対策が求められる。	1	「既に盛り込み済みです」 新規就農者数の達成に向けた若年層の離農対策は、本文48ページに記載しているように、就農希望者の円滑かつ早期の地域での定着に向け、受入れ地域や産地単位で、農業面だけでなく、住居・教育・医療など生活面の支援情報をパッケージにして就農希望者に提案し、地域への溶け込みをサポートする地域の取組を、「地域主導型就農・定着応援プロジェクト」として引き続き推進します。
8 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	新規就農者数としての指標は大切であるが、その質に十分着目するべきである。興味本位で参入する就農者が増加すると、離農率も比例して上昇することが見込まれるためである。一般に、若年層の就農者のうち認定新規就農者制度を使い独立したものには離農者が少ないことに対し、雇用就農の場合離農率が大幅に高い。それを踏まえて、新規就農者を農業分野に定着させるためには、とくに(認定新規就農者制度を利用するような)担い手たる意思のある者への投資が有効であろう。	1	「既に盛り込み済みです」 新規就農者の定着については、本文48ページに記載しているように、就農希望者の円滑かつ早期の地域での定着に向け、受入れ地域や産地単位で、農業面だけでなく、住居・教育・医療など生活面の支援情報をパッケージにして就農希望者に提案し、地域への溶け込みをサポートする地域の取組を、「地域主導型就農・定着応援プロジェクト」として引き続き推進します。
9 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	雇用農業を選択する新規就農者には、県立農業大学校・兵庫楽農センターでのセミナーや農業法人とのインターンシップなど、すでに県により実施されている豊かな研修制度の活用をすすめ、利用率を上げられるようなPRをビジョンに盛り込むことで、就農先の環境要因以外の理由での離農率を下げるができるかと考える。	1	「具体的施策の参考とします」 研修制度の活用による新規就農者の定着については、本文48ページに記載しているように、農業高校生や県立農業大学校生を対象に仕事説明会や県内農業法人等でのインターンシップの実施や、地域への溶け込みのサポート等に取り組めます。 いただいた意見については、今後、具体的施策を推進する上で参考にさせていただきます。

	項目等	意見等の概要	件数	県の考え方
10	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	大学でのフィールドワークを行う際に出会ったある新規就農者の方は、高齢化やその他個人的理由によって離農する農家とマッチングしたことで、文化や(一般に新規就農者にとってネックとなる)技術、施設や機材の継承ができ、経営がかなり楽になったと話していた。このようなマッチングや仲介サービスを一層推進することが、次世代の担い手の定着に有効となる可能性がある。	1	[既に盛り込み済みです] 経営継承の推進と多様な人材の確保については、本文49ページに記載しているように、後継者不在の家族経営体やリーダーの高齢化が進む集落営農組織等を対象に、相談会等を通じた経営継承の啓発や事業承継士等の専門家派遣、求人サイトを活用した求人・求職マッチングなどにより、新たな人材確保を進めます。
11	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	2030年の展望(農業分野)について、県内には小さな集落で農作物を販売しているところが多いため、そちらにフォーカスをするべき。	1	[既に盛り込み済みです] 小さな集落での農産物の販売へのフォーカスについては、本文52ページに記載しているように、例えば、家族経営など小規模経営体による農業が地域のコミュニティに支えられて持続し、またそのコミュニティを農業が支えるという相互性に基づく地域支援農業(CSA)を推進します。
12	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	既存のある程度強みの見えている部分をさらに伸ばすよりも、県内の小さな農家や畜産農家を支援していく必要がある。	1	[既に盛り込み済みです] 小規模経営の農業者に対する支援については、本文52ページあるように、家族経営など小規模経営体による農業が地域のコミュニティに支えられて持続し、またそのコミュニティを農業が支えるという相互性に基づく地域支援農業(CSA)を推進していきます。
13	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	農林水産ビジョン2025に基づく取組の評価における法人経営体数のR7の目標は900であるが、2030の展望のR7の目標は910となっている。どちらが正しいのか。	1	[既に盛り込み済みです] 法人経営体数は、本文54ページに記載のとおり、今回のビジョンで目標値を見直し910法人(R7)とします。
14	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	農業経営モデル、畜産業経営モデルが例示されているが、肝心なのはどのような経営でも農業で生計がきちんと成り立つかということである。県内地域ごとや品目ごとに経営モデルを具体的に示していく必要があるのではないかと。また、新規就農者向けにも経営モデルを具体的に示していくことが、農業経営者や新規就農者の不安解消や将来設計を考えるヒントになると思う。	1	[既に盛り込み済みです] 地域や品目毎の経営モデルについては、地域毎に策定するアクションプランの中で示していきます。 また、新規就農者向けの支援についてもビジョン内で記載している施策の中で実施していきます。
15	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	スマート農業の展開の中で、「アシストスーツをはじめ、反復作業、除草等の身近な作業に応用できる安価な機械・器具の早期かつ広範な普及」について触れてほしい。	1	[具体の施策の参考とします] 安価な機械・器具の早期かつ広範な普及については、本文38ページに記載しているようにスマート農業機械の共同利用や農作業を受託するJA出資法人等へのスマート農業機械の導入を支援し、個々の生産者の負担軽減を図っていきます。 いただいた意見については、今後、具体の施策を推進する上で参考にさせていただきます。
16	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	地域の農地利用等に大きな役割を担う「稲作等土地利用型経営」に対する支援、特に次代の経営者(リーダー)並びにオペレーター育成・確保について触れてほしい。	1	[ご意見を反映しました] ご意見を踏まえ、本文48ページに次の通り記述を追加しました。 「また、集落営農組織の経営力の強化に向け、農地の集積・集約化による経営規模の拡大、スマート農業機械の導入による作業の効率化ならびにオペレーターの育成、…」
17	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	「経営継承の推進と多様な人材の確保」に「データ化等…」は表現的に違和感があるので修正したほうが良い。	1	[ご意見を反映しました] ご意見を踏まえ、本文49ページに次の通り記述を修正しました。 「…データ化など生産や経営内容の可視化を…」
18	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	「優良農地の確保」に記載されている「充実するなどと…」は表現的に違和感があるので修正したほうが良い。	1	[ご意見を反映しました] ご意見を踏まえ、本文49ページに次の通り記述を修正しました。 「…担い手の農業経営の基盤でもある優良農地の確保を図ります。」

	項目等	意見等の概要	件数	県の考え方
19	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	農業のスマート化について10年後は今よりさらにAI化やIoT化が進んでいると予想されるため、農業のスマート化を先駆的かつ積極的に取り入れると同時に、そのスマート化技術を担い手の方々を広めていくことが求められる。	1	[既に盛り込み済みです] スマート農業技術の普及については、本文37ページに記載しているように、JAや農業機械化協会との協力や、民間メーカーとの連携、普及指導員やJA営農指導員等の指導力の向上により、生産現場での支援体制を強化していきます。
20	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	兵庫県が定めている「特別栽培農産物表示ガイドラインに基づく兵庫県の地域慣行レベル」を見ると、「例 水稲：節減対象農薬成分使用回数20回」とある。自身も米を作るが、田植えの後に除草剤を1回散布するのみで、その後収穫まで農薬散布はしない。特別栽培農産物は使用回数の50%以下となると、10回は使用していいことになる。10回も農薬を使用するのは理解できないし、そんな米は食べたくない。本当に安全で適正な使用方法を見直すべきである。無農薬で有機農業ができればベストであり、幼児が食べて安全な農産物を作ってもらいたい。	1	[既に盛り込み済みです] 適正な農薬使用の推進については、本文73ページに記載しているように、農業者自らが残留農薬検査を行うシステムの活用推進や、農薬使用者を対象にした適正使用の研修会・講習会の開催、農薬販売業者等への立ち入り指導等を実施し農薬の安全かつ適正な使用を推進します。 農薬低減の推進については、本文52ページに記載しているように、低コスト・品質向上と環境保全を両立した農業低減技術などの開発・普及を推進します。 また、有機農業については、本文53ページに記載しているように、有機農業の産地化や有機農産物の販路拡大、消費者への理解促進等に取り組めます。
21	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	親が小規模農家を営んでおり、近い将来引き継ぐことを検討している。農業のスマート化や将来的な農地の集積・法人化は、これからの日本の農業を守るために、必ず必要なものと考え、その推進については大賛成。小規模農家の後継者の現状は、農地を守っていききたいという思いはあっても、専業では生活ができず、(兼業の状態では)田畑を維持していくための時間と労力が足りない。	1	[既に盛り込み済みです] 農業のスマート化や将来的な農地の集積・法人化については、本文37ページ及び47ページ、50ページに記載しているように地域の多様な人材の参画により農業が支えられ、農業が地域を支える持続的な取組を進めていきます。
22	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	小規模農家でも作業のスマート化が推進されれば、兼業しながら後を継ぐことが今より実現可能になると考える。現状進められているスマート化や補助金は、大規模農家がターゲットになっているように感じる。農機具等も高額すぎて小規模農家には取り入れがたい。	1	[具体の施策の参考とします] 小規模農家に対するスマート化の推進については、本文38ページに記載しているように、スマート農業機械の共同利用や農作業を受託するJA出資法人等へのスマート農業機械の導入を支援し、個々の生産者の負担軽減を進めていきます。 いただいた意見については、今後、具体の施策を推進する上で参考にさせていただきます。
23	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	学生は農業に接する機会や農業について知る機会がほとんどない。企業の合同説明会のような場で農業についての説明を聞く機会が増えれば、農業に関心を持つ人が増える可能性がある。農業においても機械化、スマート化が進み、新規就農がしやすくなってきているということをインターンなどを通して実感出来れば、農業へのハードルが下がるのではないか。	1	[既に盛り込み済みです] 学生に対する企業の合同説明会のような場での農業に関する説明会については、本文48ページに記載しているように、県下の農業高校生や県立農業大学校生を対象に仕事説明会の開催や県内農業法人でのインターンシップ等を進めていきます。
24	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	3-4年前に老いた両親に代わり稲作に取り組み、有機農法や県主催の環境創造型農業推進フォーラムなどで学ばせていただいた。私自身、学べる場があったからこそ、意識を変え、知識を得ることができ、さらにもっと学びたいと思っている。そうした場や回数を増やしてほしい。	1	[既に盛り込み済みです] 有機農法等の学べる場については、本文53ページに記載しているように、幅広い年代層が実践技術を学ぶ有機農業教室などの学びの場の開催支援などを進めていきます。
25	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	ヨーロッパ諸国や中国、韓国などの国々が農薬の使用制限あるいは段階的な使用禁止に舵を切りつつある中で、日本の現状は各国に追い付いていない。1人でも多くの人々が安全・安心な有機の食材を食べられるようにしていくことがとても大切であり、有機農業の技術開発として、それを生産していく人々を増やし、有機の食材を食べることの大切さを教育していく環境と場が大切である。	1	[既に盛り込み済みです] 有機農業の技術開発と担い手育成等については、本文52ページに記載しているように、有機栽培マニュアルや実証ほ等による農業経営体の技術力の向上や、栽培技術や販路開拓を指導できる有機農業の親方の確保・育成を進めていきます。

	項目等	意見等の概要	件数	県の考え方
26	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	スマート農業については、今後、「ひょうごスマート農業推進方針」に基づいて、実証・実装が進められることを期待しているが、実際の農業経営にあたっては導入コストや運用コストが課題になると考える。大規模経営だけでなく中山間地域や家族経営でも取り組める技術や機械などを提案・提供していただきたい。	1	[既に盛り込み済みです] 中山間地域や家族経営でも取り組めるスマート農業については、本文38ページに記載しているように、スマート農業機械の共同利用や農作業を受託するJA出資法人等への農業機械の導入を支援し生産者の負担軽減や、農地の大区画化や用排水路の管路化(パイプライン化)を推進します。
27	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	露地野菜を中心とした主要野菜の産地拡大は、機械化・省力化を進めていく必要があるが、育苗施設や集出荷施設の整備もあわせて行い、担い手の負担軽減を図っていくことも大事。そうすることで、産地を支える家族経営農家や兼業農家の経営継続にもつながるのではないかと。	1	[既に盛り込み済みです] 露地野菜を中心とした主要野菜の産地の拡大については、本文41ページに記載しているように、機械化一貫体系の導入や大型育苗施設をはじめ共同利用施設の整備など、露地野菜生産の省力化や効率化を推進していきます。
28	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	都市近郊の立地をいかした競争力の高い施設園芸産地の育成は今後とも進めていく必要があるが、トマトやいちごなどは流通面で飽和状態になると価格面で落ち込みも激しく、施設コストが賄えるのか心配。ブランド化や販売力強化の誘導施策もあわせて示していただきたい。	1	[既に盛り込み済みです] 競争力の高い施設園芸産地の育成に向けたブランド化や販売力の強化については、本文42ページに記載しているように、県産野菜の価値を実需者や消費者に伝える野菜バリューチェーンの推進やインターネットを活用した県産野菜のPRをさらに展開していきます。
29	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	本県は水田の割合が高く水稲中心の経営が一般的だが、今後は、地域の特色をいかして麦・大豆や野菜を組み合わせた複合経営に本格的に移行し、所得の安定やリスク分散を図っていく必要がある。水稲以外の作物を作ろうと考えると、新たな機械の導入や、排水対策など圃場の整備も含めて進めていく施策を組んでいただきたい。	1	[既に盛り込み済みです] 水稲に麦・大豆や野菜を組み合わせた複合経営に移行する際の排水対策等の施策については、本文50ページに記載しているように、農地の大区画化や用排水路の管路化(パイプライン化)の推進や、暗渠排水の整備による田畑輪換を推進していきます。
30	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	米の安定生産にあたっては、ライスセンター等の再編による生産・集荷体制の効率化が不可欠と考える。広域で集荷ポイントを設置し、基幹施設に集約していく、フレコンを活用するなどさまざまなやり方を検討して進めていただきたい。また、集約する基幹施設の整備のあり方についても、生産・集荷団体と十分に協議しながら進めていただきたい。	1	[既に盛り込み済みです] 米の安定生産については、本文44ページに記載しているように、ライスセンターの再編等による生産・出荷体制の効率化を推進していきます。
31	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	都会からの就農者受け入れに、支援を求め、環境創造型農業の推進を希望する。農村の現状は、高齢化が進み後継者も少なく10年後には農家は半減すると言われる。現在でも、農村の管理をする人がいなくなり、水路の保全もできなくなる状況だ。都会の若者を農村へ招き入れるための方法を考えている。若者は、農薬、化学肥料を使わない農業を好むため小規模農業で、環境創造型農業の推進をお願いしたい。補助金を要望する。トラクター、倉庫、ハウス、農機具、宿泊所があれば可能。	1	[既に盛り込み済みです] 環境創造型農業の推進については、本文52ページに記載しているように、環境負荷軽減に配慮しながら高品質な農産物の安定生産をめざす環境創造型農業を本県農業の基本として取組を拡大します。また、有機農業の推進については、本文52ページに記載しているように、経営として成り立つ有機農業の取組拡大を推進します。
32	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	今後の地方都市のビジョンとして、農業中心に人がつながり、地域内での食物の流通、学校給食の有機無償化を含めて有機農業の推進をお願いしたい。有機農業は環境改善や気候崩壊を止める手段になる。食料の安定は人命に関わる最重要問題だ。	1	[既に盛り込み済みです] 有機農業の推進については、本文52ページに記載しているように、経営として成り立つ有機農業の取組拡大を推進します。
33	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	兵庫県が種子条例を制定し、子孫に残す大切な種子を残してくれることに感謝している。この条例を大いに活用し、これまで以上に優良種子を守り通すために尽力してほしい。命を育む農業種子を適正価格で購入できるシステムを維持し、農家の経営を守ってほしい。	1	[既に盛り込み済みです] 主要農作物の優良種子の安定供給については、主要農作物種子生産条例に基づき、良質な種子の安定生産・供給を推進します。
34	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	持続可能な農業を目指して、有機農業を推進してほしい。EUなど諸外国では、自国の食料自給率を高めているのに日本は低下する一方で、未来の子供たちが食糧難になることも考えられる。	1	[既に盛り込み済みです] 有機農業の推進については、本文52ページに記載しているように、経営として成り立つ有機農業の取組拡大を推進します。

	項目等	意見等の概要	件数	県の考え方
35	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	農薬の規制も緩くなるばかりで、特にネオニコチノイド系農薬は主食のコメにも使われている。神経毒性がわかっているため、胎児や幼児の脳の発達に悪影響がある。学校給食からネオニコフリーのコメを使うことから始めると、県民の意識が変わり、兵庫県の条例として制定できるのではないかと思う。	1	[その他] ネオニコチノイド系農薬など既存の農薬については、令和3年度以降、国において科学的知見に基づいた安全性等の再評価が順次実施される予定です。評価結果に基づき、安全で適正な農薬使用の推進に取り組んでいきます。
36	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	スマート農業に取り組むためには、高価な機械を購入し、シェアリングしてコストを下げることになるが、購入費に修理費や維持費を加えた金額が生産者の納得できる範囲に収まるか甚だ疑問だ。	1	[既に盛り込み済み] スマート農業のコスト低減については、本文38ページに記載しているように、スマート農業機械の共同利用や農作業を受託するJA出資法人等へのスマート農業機械の導入を支援し、生産者の負担軽減を図っていきます。
37	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	スマート農業の機械が故障した場合に、対応できる人がすぐ来てくれるかどうかについて、実証実験なら可能であっても、普及した場合には忙しくなり対応できなくなるかもしれない。自前で養成するとしても高齢者が多いのでなかなか難しいと思う。	1	[具体の施策の参考とします] スマート農業の普及については、スマート農業機械の共同利用やJA出資法人等への導入支援により生産者の負担軽減等を図ることとしています。 いただいた意見については、今後、具体の施策を推進する上で参考にさせていただきます。
38	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	アシストスーツは果樹栽培や重いコンテナを持ち上げる時に非常に役立つもので、価格がもう少し下がるともっと普及する可能性がある。	1	[具体の施策の参考とします] スマート農業の普及については、スマート農業機械の共同利用やJA出資法人等への導入支援により生産者の負担軽減等を図ることとしています。 いただいた意見については、今後、具体の施策を推進する上で参考にさせていただきます。
39	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	兵庫県では新規就農者数の増加を目標にしているにもかかわらず、減少しているのは大きな問題だ。山形県では新規就農者数が令和1年には353人と8年連続で増加しており、昭和60年の調査以来過去最多を更新している。この増加の理由としては新規就農者に対しての手厚いサポート体制が1つの要因であると考えられる。山形県は『やまがた農業支援センター』をはじめとした相談を気軽にできる施設が整っており、短期体験プログラムや就農に向けて他産業に従事しながら基礎を学ぶことができる制度など、手厚い研修が用意されている。これによって農業に対してマイナスイメージを持つ若者を後押しできていると考える。兵庫県は初めから400人を目指すのではなく、このように就農に興味があるが不安を抱えている人に向けて丁寧に研修制度を設けることで、新規就農者の増加に繋げることができると考える。	1	[既に盛り込み済み] 新規就農者への手厚いサポートについては、本文48ページに記載しているように、県及び地域段階に設置された就農支援センターがワンストップ窓口になり、就農希望段階から就農後の定着まで一貫した支援を引き続き実施していくこととしています。
40	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	兵庫県の都市が近いという立地や新型コロナウイルス感染症によるリモートワークの普及によって今後、Uターン就職が増加する可能性がある。したがって今こそ新規就農者獲得に力を入れ、若者が就農しやすい環境を作ることが、今後持続的に兵庫県の農業を活性化する上でも非常に重要だと思う。	1	[既に盛り込み済み] 若者が就農しやすい環境を作ることについては、本文76ページに記載しているように、農圃整備や空き家改修に対する支援や、Uターン職業窓口である「カムバックひょうごハローワーク」や大学等教育機関との連携によって、就農促進に取り組めます。
41	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	「ひょうごの農産物検査システム」に関して、農業者は自身の使用している農薬について深く理解していない人もいると聞いたことがある。このシステムで農業者自らが残留農薬検査を行うことで、農薬の知識を深めることができると考える。農業者は自身の使用する農薬の知識をしっかりと持った上で、安心安全な生産物を消費者に提供することができ、自信を持って農業を行うことができるのではと考え、本システムに賛同する。	1	[既に盛り込み済み] ご賛同いただきましたひょうごの農産物検査システムの活用については、本文73ページに記載しているように、安全で信頼される農産物の生産を推進するために取り組んでいきます。
42	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	兵庫は消費地のため、付加価値は民間に任せて行政は県民、阪神間の消費者へ目に見える消費意欲の向上を行ってはどうか。 具体的には川上、川下どこでもいいのでお金を投入して兵庫県産米を買った方が得に見えるようにする方法がある。需要に直結するにはそれが効果的と思う。(他府県産に關税が掛けられないのなら輸出補助金みたいに実質安くなるような事をやってはどうか)	1	[具体の施策の参考とします] 本県では、ひょうご食品認証制度の推進による県民に信頼される食の安定供給や、直売活動の支援や学校給食を通じた地元食文化への理解促進を通じた県産県消により、県民の消費拡大等を進めていきます。 いただいた意見については、今後、具体の施策を推進する上で参考にさせていただきます。

	項目等	意見等の概要	件数	県の考え方
43	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	米価はH26年まで価格下落しそこから去年まで価格は上昇した。米価の上昇期でさえ長期契約が殆ど結ばれてないお米が米価下落に転じている中では更に難しい。多収性品種の導入と並行して、積極的な減反と本格的に輸出への取組をしてはどうか。	1	[既に盛り込み済みです] 多収性品種の導入と並行した積極的な減反、輸出の取組については、本文42ページや70ページに記載しているように、土地利用型作物主体の経営から野菜を組み入れた経営への転換促進や兵庫県産米の海外輸出の促進を図っていきます。
44	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	ライスセンターの再編は効率化にならないと思う。農協の見栄の為という気がしなくもない。兵庫に合ったライスセンターの在り方を県行政で検討してはどうか。中山間地では面積当たりの農地が少ないから小規模分散型の方がよい。	1	[具体の施策の参考とします] ライスセンターの再編については、米の生産・出荷体制の効率化に向けて取り組みます。 いただいた意見については、今後、具体の施策を推進する上で参考にさせていただきます。
45	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	丹波黒大豆について今後のブランドの維持発展には、全国の消費者に対して“丹波黒大豆枝豆”を表に出していった方がいい。まさに需要に合ったブランド構築だと思う。	1	[既に盛り込み済みです] 全国に向けた丹波黒大豆枝豆のブランド構築については、本文69ページに記載しているように、産品にあった販売エリアを見極め、そのエリアに適した販路拡大・開拓を支援します。

パブリックコメントの概要と県の考え方(畜産業関連)

	項目等	意見等の概要	件数	県の考え方
1	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	2030年の展望(畜産分野)について、県内の比較的小規模な牧場等の支援をすることが(畜産分野の)活性化につながるのではないかと。	1	[既に盛り込み済みです] 比較的小規模な牧場等に対しては、本文55-58ページに記載しているように、ヘルパー制度の利用促進や但馬牛繁殖雌牛、高能力乳用牛の導入、受精卵移植等を支援することにより、本県畜産の活性化につなげます。
2	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	畜産業の取組みについて、全国民に向けた神戸ビーフのPRがあればブランド強化につながるのではないかと。PRに徹することが、既存農家の支援拡大や新規農家の獲得につながり、さらなる供給力の向上につながると考える。	1	[既に盛り込み済みです] 神戸ビーフのPRによるブランド強化については、本文57ページに記載しているように、但馬牛博物館・神戸ビーフ館や「但馬牛・神戸ビーフ応援大使」を介して国内外に広くPR活動を展開していきます。
3	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	高品質な畜産物の生産力強化について、牛舎や機器の整備、受精卵移植の普及によって但馬牛増頭の推進を行うことに強く賛同する。	1	[既に盛り込み済みです] ご賛同いただきました但馬牛の増頭の推進については、本文55ページに記載しているように、繁殖雌牛の導入や自家保留、牛舎や機械等の整備の支援します。
4	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	高品質な畜産物の生産力強化について、但馬牛肥育マニュアルを活用し、高品質な牛肉の安定生産の推進を行うことに賛同。ただ、但馬牛肥育マニュアル自体の改善、検討を随時行うことが必要。さらには、マニュアル通りにいかない例外的な事柄に対応できる現場の人間の育成も同時に進めていくことが大事。	1	[具体の施策の参考とします] 但馬牛肥育マニュアルについては、本文57ページに記載しているように、肥育技術の研究成果等を反映させ、継続的に更新します。いただいた意見については、今後、具体の施策を推進する上で参考にさせていただきます。
5	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	高品質な畜産物の生産力強化について、但馬牛・神戸ビーフのブランド力は、確かに神戸ビーフ館、但馬牛博物館によって、強化される。しかし、そもそも当該施設の知名度は高くないのではないかと。知名度を上げるために広告にもっと力を入れることが大事。	1	[既に盛り込み済みです] 神戸ビーフ館、但馬牛博物館の知名度については、本文57ページに記載しているように、但馬牛博物館では但馬牛の歴史、おひさの特長等の解説に加え、日本農業遺産認定や世界農業遺産認定(申請中)の情報発信なども含め、国内外に向けた積極的なPRにより需要の拡大につなげます。神戸ビーフ館については神戸市内のよりPR効果の高い場所での本格オープンに向けた取組を推進していきます。
6	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	高品質な畜産物の生産力強化について、牛舎整備の支援による生乳生産の拡大、高品質な堆肥生産と耕畜連携推進、については、強く賛同する。	1	[既に盛り込み済みです] ご賛同いただきました生乳生産の拡大や高品質な堆肥生産と耕畜連携の推進については、本文58ページと60ページに記載しているように、各施策に取り組んでいきます。
7	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	但馬牛・神戸ビーフの供給力の向上に向けた、新たな担い手の確保や但馬牛繁殖雌牛の増頭などの取組はぜひ進めて頂きたい。 農業従事者が減少している現在、担い手の確保は非常に困難であると考えられる。実際に思うように確保ができなかった場合の具体的な対策が必要である。	1	[既に盛り込み済みです] 担い手の確保が困難な場合の対策としては、本文38ページと55ページに記載しているように、発情発見や分娩監視等の通報システム、自動給餌器等の省力化機械の導入支援及びヘルパー制度の利用推進など労働負荷の軽減を図ります。
8	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	但馬牛・神戸ビーフのブランド力の強化において施設の充実を挙げているが、実際国内の消費者(特に若者)は博物館を訪れるとは考えにくい。	1	[既に盛り込み済みです] 但馬牛博物館の訪問については、本文58ページに記載しているように、来館できなくても但馬牛・神戸ビーフの需要喚起に繋げるため、多言語閲覧アプリの導入などインターネットを活用した但馬牛・神戸ビーフの魅力を発信するPR活動を強化します。
9	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	神戸ビーフが小中学校の給食に提供されたという報道は、神戸ビーフの消費促進に繋がっただけでなく、県民(若者)に普段は親しみのない地元の特産品を実際に食べてもらう大きなPR効果があった。この事業に関しては今後もぜひ続けて頂きたい。	1	[既に盛り込み済みです] 県産県消の推進については、本文93ページに記載しているように、地元特産品など県産農林水産物を活用したメニューの検討・導入などにより、本県農林水産業や地元食文化への子どもたちの理解を促進します。

10	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	11月25日に淡路島で鳥インフルエンザが確認され、14万羽の鳥が殺処分された。殺処分、養鶏場の密閉、徹底的な消毒、このやり方が鳥インフルエンザを防ぐ解決策になっているのだろうか。欧米ではアニマルウェルフェアの観点から、パタリーケージを廃止・禁止し、ケージフリーへと移行している。鶏が本来の鶏の姿で過ごせる環境を作ることが、健康で免疫のある鶏を育てる。日本でも小規模ながら平飼いや放牧飼育を行う農家の方たちへの応援・優遇、または平飼いや放牧飼育への移行を奨めるために税金を使ってもらえないか。持続可能なアニマルウェルフェアの重要性を考えてほしい。	1 [既に盛り込み済みです] 持続可能なアニマルウェルフェアの重要性については、本文74ページに記載しているように、食品安全や環境保全、労働安全、動物福祉(アニマルウェルフェア)等に係る取組と畜産物のより良い生産工程の管理(畜産GAP)を推進し、畜産物の持続的生産を確保します。
11	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	但馬牛のブランド戦略について、PRの対象とするターゲットについてより詳細に検討し、ターゲットを絞ることでさらなる需要拡大につながる。	1 [既に盛り込み済みです] 但馬牛のターゲットを絞ったブランド戦略については、本文57ページに記載しているように、但馬牛・神戸ビーフを国内外に向けて積極的にPRを行うことより需要の拡大に繋がります。
12	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	但馬牛というブランドは知っているが、食べたことがない人が国内には多いと感じるため、消費者が但馬牛を気軽に味わえる商品やメニュー開発を行い、多くの人が但馬牛を味わう機会を増やすという戦略も必要ではないか。国内の需要拡大に力を入れて取り組むことが、「但馬牛」としてのブランド強化につながる。	1 [既に盛り込み済みです] 神戸ビーフ館、但馬牛博物館による但馬牛・神戸ビーフのブランド力向上については、本文57ページに記載しているように、これらの施設を活用して国内外に広くPR活動を展開していきます。
13	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	神戸ビーフ館、但馬牛博物館の知名度がまだまだ低い。但馬牛・神戸ビーフのブランド力強化のため知名度を上げる必要がある。	1 [既に盛り込み済みです] 神戸ビーフ館、但馬牛博物館の知名度については、本文57ページに記載しているように、但馬牛博物館では但馬牛の歴史、おいしさの特長等の解説に加え、日本農業遺産認定や世界農業遺産認定(申請中)の情報発信なども含め、国内外に向けた積極的なPRにより需要の拡大につなげます。神戸ビーフ館については神戸市内のよりPR効果の高い場所での本格オープンに向けた取組を推進していきます。
14	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	アルバイトをしていた某ファーストフード店では、神戸牛を使ったハンバーガーを千円で提供していた。主な購入者は訪日外国人観光客であり、海外に対するブランド力が浸透しているように感じたので、海外への市場拡大を目指す方針には賛成する。	1 [既に盛り込み済みです] 神戸ビーフの海外市場の拡大については、本文70ページに記載しているように、国内需要とのバランスを図りつつ、販売エリア・ターゲットに応じたプロモーションを展開していきます。
15	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	神戸ビーフの肥育素牛の生産拡大に向けた対策案の中に、但馬牛受精卵移植の普及及び畜産技術センターによる受精卵供給体制の確保とあるが、凍結保存精子のより精密な選別体制への支援及び凍結保存精子の供給体制の確保なども重要ではないか。種雄牛精子の運動性や正常性を個別で自動的に判別できる機器への投資、X精子Y精子を用いた雌雄の産み分け技術の導入促進など、凍結保存精子による人工授精の受胎率向上に向けた取組も重要課題として大きく取り上げても良いのではないかと考えた。	1 [具体の施策の参考とします] 但馬牛受精卵移植の普及等については、畜産技術センターによる受精卵供給体制を確保することとしています。いただいた意見については、今後、具体の施策を推進する上で参考にさせていただきます。

パブリックコメントの概要と県の考え方(林業関連)

項目等	意見等の概要	件数	県の考え方
1 第5章 農林水産ビジョン2030のめざす姿	基本方向2のめざす姿10について展開する施策として「災害に強い森づくり」を含めて記載したほうがいい。	1	[ご意見を反映しました] ご意見を反映し、本文21ページに次の通り記述を追加しました。「森林の適正管理や災害に強い森づくり、県民総参加による森づくり・・・」
2 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	「豊かな森づくりの推進」は大変重要な施策である。森林が持つ様々な公益的機能によって人間生活が守られていることを考えれば、産業としての林業の振興と公共財としての森林の整備・保全の両方の施策を並行して進めていくべきであり、決して経済性のみでの追及にならない。	1	[既に盛り込み済みです] 豊かな森づくりの重要性については、本文85ページに記載しているように、森林の適正管理の徹底による公益的機能の維持・向上に向け、新ひょうごの森づくりや森林環境譲与税を活用した間伐等の取組を進めています。
3 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	推進項目4推進方策Ⅱ①人工林の適正な整備の推進では、森林環境譲与税を投入する条件不利地における森林整備について、将来の広葉樹、環境保全林に誘導するところまで明確化している一方で、推進項目10推進方策Ⅰ①「新ひょうごの森づくり」の推進等による森林管理の徹底については、森林環境譲与税の主旨を表した同様の目標等の記載がないので、調整が必要であると感じる。	1	[既に盛り込み済みです] 森林環境譲与税の主旨を表した目標の記載については、各推進項目での記載内容の重複を避けるため、推進項目4Ⅱ①推進方策「人工林の適正な整備の推進」のみに記載し、推進項目10推進方策Ⅰ①「新ひょうごの森づくり」の推進等による森林管理の徹底では、森林の適正管理の手法を記載しています。
4 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	新たな視点の5森林の適正管理の徹底による公益的機能の維持・向上について、森林環境譲与税を投入する条件不利地の森林整備の取組として、将来の広葉樹、環境保全林に誘導する目標なリスタンスの記載があったほうがいい。	1	[既に盛り込み済みです] 将来の広葉樹、環境保全林に関する内容については、本文62ページに記載しており、「森林の適正管理の徹底による公益的機能の維持・向上」の項目では、記載内容の重複を避けています。
5 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	森林の適正管理に関し、県内各地で侵入竹が問題となっている。スギ、ヒノキに加え竹も適切に伐採しなければ里山や森林の荒廃につながり、その危機は目前にまで迫っている。ビジョン案には侵入竹に関してあまり触れられていない。県として侵入竹への対策が必要ではないか。一例としては、竹加工事業者に竹の活用量に応じて補助金を支払うなど。	1	[既に盛り込み済みです] 侵入竹の対策については、本文85ページに記載しているように、長期間放置され侵入竹等によって荒廃の進む里山林を再生するため、地域住民や森林ボランティア等による森林の保全管理活動などの整備を進めます。

パブリックコメントの概要と県の考え方(水産業関連)

項目等	意見等の概要	件数	県の考え方
1 概要	概要に内水面漁業に関する記述を入れていただきたい。	1	[ご意見を反映しました] ご意見を踏まえ、概要資料2ページに次のとおり記述を追加しました。 「内水面における水産資源の維持と地域活性化の推進」
2 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	栄養塩の回復について、水産業単体の課題ではなく林業にも関連する問題ではないのか。 栄養塩の回復には水産業のみならず林業との連携の推進が必要不可欠であると考え、林業と連携した施策の追加を提案する。	1	[既に盛り込み済みです] 林業との連携による栄養塩管理の推進については、本文65ページに記載しているように、漁業者による森づくり活動など森・里・ため池・川・海をつなぐ栄養塩供給の取組を促進します。
3 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	県や市による下水処理場の栄養塩管理運転の実施や、漁業者による海底耕耘、森づくり活動に加え、将来的には生物を活用した豊かな海の再生手法が期待されている。	1	[既に盛り込み済みです] 生物を活用した豊かな海の再生手法については、本文66ページに記載しているように、環境改善が期待できるナマコ、アジアカエビの種苗の放流など、新たな栽培漁業を展開します。
4 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	海底において堆積物の分解を促進するナマコやアジアカエビの種苗の放流が記述されているが、このような豊かな海の再生を目的とした栽培魚種の設定は、全国初の画期的なもので、漁業者からも大きな期待が寄せられている。 これらを実現するためには、安定した量産化技術の確立とともに新魚種に対応した施設の整備が必要である。	1	[具体の施策の参考とします] 豊かな海の再生を目的とした栽培魚種の量産化技術の確立と施設整備の推進については、環境改善が期待できるナマコ・アジアカエビの種苗の放流などの新たな栽培漁業の展開に取り組みます。 いただいた意見については、今後、具体の施策を推進する上で参考にさせていただきます。
5 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	平成17年に開設された「大輪田塾」は、これまで約70名の修了生を輩出し、「浜のリーダー」育成機関として兵庫県の漁業発展に貢献している。 講義内容の充実や予算確保等の課題もあり、この活動を持続的に実施していくためには、特に県庁水産課のより一層の支援を必要としている。 兵庫県には「大輪田塾」の活用のみならず、より強力な支援と指導をお願いしたい。	1	[既に盛り込み済みです] 水産業における人材育成については、本文67ページに記載しているように、「大輪田塾」等を活用した人材の確保・育成の取組を推進することにより、将来の漁村をリードする人材や漁業者の経営支援を担う漁協職員の育成を推進します。
6 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	加古川水系の水産物の漁獲高はピーク時の10分の1以下まで激減している。その要因の最たるものは河川工事による河川環境の悪化であり、水棲生物が生息・生育しがたい状態になっていることである。 私どもは毎年国交省や県土木の発注者に対して、河川工事に際し「多自然川づくり」、例えば護岸沈床、魚道の整備、水際環境の改善、避難場所の設置などを設計段階から組み込み、河川環境の整備・保全に努めるよう要望しているが、遅々として進んでいない。河川環境の整備・保全は喫緊の課題であるだけに、最優先に推進していただきたい。	1	[具体の施策の参考とします] 河川環境の整備・保全の推進については、河川の生態系を保全する活動やそれらを通じた環境学習、外来魚やカワウ等の効率的な駆除・防除対策などの支援に取り組みます。 いただいた意見については、今後、具体の施策を推進する上で参考にさせていただきます。
7 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	養殖場の運営・充実や産卵場の造成、魚道の整備にできるだけ支援をお願いしたい。	1	[既に盛り込み済みです] 養殖場の運営・充実等の支援については、本文67、68ページに記載しているように、サケ科魚類等の種苗生産・育成の効率化など、新技術の開発と普及を推進します。 また、産卵場の造成、魚道整備については、本文81ページに記載しているように、河川の生態系を保全する活動に取り組む活動組織の支援により推進します。
8 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	カワウ対策には単協だけでは対応に限界があるため、流域自治体の協力が得られる体制づくりを追加願いたい。	1	[既に盛り込み済みです] カワウ対策に向けた体制づくりについては、本文81ページに記載しているように、外来魚やカワウ等の効率的な駆除・防除対策などを推進します。

9	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	少子高齢化が一層進展する中で若手組合員が極端に減少しているうえ、指導者が全くいない。次代を背負う意欲のある経営者、指導者の育成を強く望む。	1 [既に盛り込み済みです] 意欲のある経営者や指導者の育成については、本文65ページに記載しているように、新規漁業就業者等の設備投資の負担軽減や漁業現場での長期研修支援制度の活用等により、次世代を担う漁業者の確保・育成を推進します。また、漁村をリードする人材や漁業者の経営支援を担う漁協職員を育成する「大和田塾」等を活用し、指導者となる人材の確保・育成を推進します。
10	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	ここ数年いかなごの漁獲量の減少に伴い、いかなごの価格が大幅に上昇し、購入するのを躊躇せざるを得ない。兵庫県の名産品であるいかなごのくぎ煮を復活させるためにも、今後とも瀬戸内海の適正な栄養塩管理は速やかに行っていただきたい。	1 [既に盛り込み済みです] 瀬戸内海の適正な栄養塩管理については、本文65ページに記載しているように、「豊かな海の再生」を目指し、海底耕うんをはじめ、藻場や浅場等の生物生息環境の保全・回復などの取組を推進するとともに、下水処理場の栄養塩管理運転やため池のかいぼりなど、森・里・ため池・川・海をつなぐ栄養塩供給の取組を促進します。さらに、栄養塩供給の改善・促進を図るため、栄養塩循環メカニズムや食物連鎖構造の調査・研究を進めます。
11	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	内水面は漁業権のみならず、近年ではごみ、水質、魚を含む水生生物、植物、親水など環境的な面でも注目されており、行政としても是非施策・ビジョンにこれらを組み込んでいただく必要がある。特に内水面漁業振興法に基づいた内水面漁業振興計画をより具体的に検討していただきたい。	1 [既に盛り込み済みです] 内水面における環境面での取組については、本文80ページに記載しているように、河川環境の保全を推進するため、河川の生態系を保全する活動やそれらを通じた環境学習、外来魚やカワウ等の効率的な駆除・防除対策などの取組を支援します。 また、河川の水産資源の維持と地域の活性化に向け、「ひょうご内水面漁業振興方策」に基づき振興を図るとともに、特にアユのほか遊漁者に人気の高いサクラマス・サツキマス等の低コストで省力的な増殖手法の検討を進めます。
12	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	昨年、改正された海域の水質目標値(下限値)を達成できる様、今後も栄養塩供給対策をしっかりと推進していただき、我々漁業者が目指す1995年～2000年頃の瀬戸内海の状況に戻るよう願っている。また、県民への豊かな海の再生の取組の重要性を広く啓発し、漁業者の豊かな海の再生への取組に対して理解と協力が頂けるよう情報発信にもご協力いただきたい。	1 [既に盛り込み済みです] 栄養塩供給対策の推進については、本文65ページに記載しているように、海底耕うんをはじめ、藻場や浅場等の生物生息環境の保全・回復などの取組を推進するとともに、下水処理場の栄養塩管理運転やため池のかいぼりなど、森・里・ため池・川・海をつなぐ栄養塩供給の取組を促進します。さらに、栄養塩供給の改善・促進を図るため、栄養塩循環メカニズムや食物連鎖構造の調査・研究を進めます。 また、豊かな海の再生への取組に対する県民への情報発信については、これらの取組が県民の皆様へ広く伝わるよう、豊かな海発信プロジェクトや全国豊かな海づくり大会等を通して広報を展開します。
13	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	現在、年間約130講座1,790名を対象に兵庫県産魚を使用した料理教室の開催、県下小中学校へのお魚出前講座を148校に330件開催し、延べ10,500名が受講可能な食育活動の体制が整っている。今後も幅広い世代への魚食普及活動及び食育活動の拡大は重要課題であるため、活動拡大への協力・支援とビジョンへの反映をお願いしたい。	1 [既に盛り込み済みです] 魚食普及活動及び食育活動の拡大については、本文93ページに記載しているように、水産物の需要喚起・販売促進を図るためのオンライン料理教室の開催や調理方法等の動画配信を推進します。 また、県漁連や漁協女性部等による料理教室の開催など幅広い世代への魚食普及活動を支援します。
14	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	県漁連では、コープこうべ生活協同組合と連携したひょうごの地魚推進プロジェクト(通称:「とれびち」)の活動を通じ、ひょうごの漁業や魚への理解を深め、店舗での販売促進に繋げる取組みを実施している。今年度よりコープこうべ組合員を対象としたとれびちサポーター養成講座を開講し、学習会等の活動を増やし、更なる県産水産物の消費拡大を推進する。活動への協力・支援とビジョンへの反映をお願いしたい。	1 [既に盛り込み済みです] 県産水産物の消費拡大を推進する活動については、本文94ページに記載しているように、食品スーパーなどの鮮魚売り場での店頭販売や地元での消費拡大イベントの開催等を支援します。

パブリックコメントの概要と県の考え方(地域)

	項目等	意見等の概要	件数	県の考え方
1	第3章 食と「農」を取り巻く情勢の変化	指標は自然災害の多発や構造的な課題の顕在化で低下傾向とあり、2015年から2018年の農業林業の産出額低下が確認された。2019年から2020年にかけては新型コロナウイルスの感染拡大による統計推移が気になる。	1	〔既に盛り込み済みです〕 新型コロナウイルスの感染拡大による主な農林水産物への影響額については、本文11ページに記載しています。 また、今後の産出額の推移についても、毎年発行しているみどり白書で分析を行っていきます。
2	第5章 農林水産ビジョン2030のめざす姿	基本方向2のめざす姿9について「農業水利施設や漁港等の防災・減災対策」から「農業水利施設や山地、漁港の防災・減災対策」とした方が良い。文章の長さからも省略する必要がないと思う。	1	(ご意見を反映しました) ご意見を踏まえ、本文21ページの記載を次の通り修正しました。 「農業水利施設や山地、漁港の防災・減災対策・・・」
3	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	小規模農家から出るふん尿を原料にエネルギー資源化のためのバイオマスユニット開発が一部の農家で進められていることを、大学の研究室で学んだ。小規模農家のバイオマスユニット開発は巨額な初期費用とその回収年数が障壁となって開発が遅れている。こういった持続可能な新技術開発を取り入れようとする農家への国、地域のバックアップが必要と感じている。	1	〔具体の施策の参考とします〕 持続可能な新技術を取り入れようとする農家へのバックアップについては、市町でのバイオマス利用推進計画の策定から消化液の利用促進など地域での連携体制の構築まで幅広く支援していきます。 いただいた意見については、今後、具体の施策を推進する上で参考にさせていただきます。
4	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	神戸市は全国の県外転出者数でワースト上位であり、2020年1月から9月の転出者は全国最多の約5000人という統計結果を新聞で目にした。特に県内の大学生が就職で東京、大阪へ転出し、四国からの就職による転入が減少している。これら若年層による人口減少は数値以上に大きな課題を抱えていると感じられる。	1	〔既に盛り込み済みです〕 若年層の県外への転出による人口減少の課題については、本文76ページに記載しているように、UJIターンなど都市部からの新たな人の流れの拡大等を図り、農山漁村の活性化や将来を見据えた地域づくりをめざします。
5	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	新型コロナウイルスの影響により地方移住に注目が高まってきている。兵庫県はこの機会をチャンスと捉え、積極的に移住定住施策を進めていくべきだ。移住者の最大の不安要素である雇用問題を解決するために、県が地方の企業と移住者のマッチングにさらに力を入れるべきである。また、都市に住む人は、地方にどのような仕事があるのか知る機会がなかなか無いので、行政が積極的に情報提供を行う必要がある。	1	〔既に盛り込み済みです〕 コロナを契機とした地方への移住や定住の施策については、本文48ページに記載しているように、県および地域段階に設置された就農支援センターがワンストップ窓口となり、カムバックひょうごセンターやハローワーク、各市町の移住部局とも連携しながら、就農希望者の情報等を幅広く補足し、就農相談から経営計画づくり、研修先となる親方農家のマッチング、施設等導入時の初期投資の軽減など、就農後の定着までの一貫した支援に取り組みます。
6	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	農山村地域の課題解決について推進項目の8～9の取組は農山村地域で暮らす農業従事者の多くが抱える課題の解決に大きく貢献できる。	1	〔既に盛り込み済みです〕 ご賛同いただきました農山村地域の課題解決の取組については、本文76ページから84ページに記載しているように、各施策に取り組んでいきます。
7	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	農山村地域の課題解決について、UJIターンを利用して若者に移住してもらったり、関係人口として地域の農業を支えてくれる若者を増やしたりする工夫を取り入れることはとても良いアイデアである。	1	〔既に盛り込み済みです〕 ご賛同いただきました農山村地域の課題の取組については、本文76ページに記載しているように、UJIターンなど都市部からの新たな人の流れの拡大等を図り、農山漁村の活性化や将来を見据えた地域作りをめざします。
8	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	神出町東で、最近家の周りまでイノシシが出て、水稲や野菜に被害があり、夜に車と衝突する事故も発生している。現在猟友会が檻での捕獲や電柵の対策を実施しているが、わが村での捕獲実績は0である。イノシシの数を減らすより有効な対策を期待する。地元の人員を研修し、取れたイノシシの肉を販売するようなモデルはできないか。	1	〔具体の施策の参考とします〕 村人にイノシシの捕獲の研修を行い肉を販売するモデルケース等については、本文77ページや78ページに記載しているように「集落ぐみの鳥獣害対策」や「ジビエの利活用の促進」に取り組みます。 いただいた意見については、今後、具体の施策を推進する上で参考にさせていただきます。

9	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	新型コロナウイルスの影響で田舎や農村に目を向けるようになった人をターゲットにして、UJIターンと就農促進をすることは非常に効果的である。	1	〔既に盛り込み済みです〕 ご賛同いただきましたコロナを契機としたUJIターンと就農促進の取組については、本文34ページに記載しているように、ポストコロナ社会における新たな姿の実現に向けた施策のひとつとして推進していきます。
10	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	中山間地域における地域活性化の推進において、UJIターン施策と連携した就農促進は、都市と近接する兵庫の強みが生かせる良い施策だと思った。都市住民を対象に遊休農地を活用した農業を楽しむ農園整備や空き家改修に対する支援は農村地域に興味を持ってくれるきっかけになると思うので進めていくべきだと思った。継続的なサポートによって新規就農者は安心して考えるので充実したサポートが求められる。	1	〔既に盛り込み済みです〕 ご賛同いただきました中山間地域での新規就農者に対するサポートの充実については、本文76ページに記載しているように、田園回帰、定住を志向する都市住民等を対象に、遊休農地等を活用して農業を楽しむための農園整備や空き家改修に対する支援とともに、就農相談から就農計画の策定や資金の確保ならびに栽培技術の早期習得等について、就農支援センターにおいてワンストップで支援します。
11	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	新型コロナの影響で過度な都市集中や経済活動のあり方など、働き方や暮らし方が見直されており、都市部から地方へ人が流れて来ていると思うので、「農林水産業のスマート化」、「UJIターン施策等と連携した就農促進」「地産地消」などの取組は非常に有効である。特に、農村地域の高齢化や人口減少が著しいことを考えると、定住化や二地域居住、農村部への観光の推進に力を注いで欲しい。	1	〔既に盛り込み済みです〕 定住化や二地域居住の推進については、本文89ページに記載しているように、企業・市町等との連携のもと、農園整備や空き家改修支援をさらに推進するとともに、自家菜園講座の開設支援など田舎暮らしの充実を図ります。 また、農村部への観光の推進については、本文91ページに記載しているように、ひょうごの五国の多様な気候や風土、都市近郊の立地を活かし、県内外の住民に対し本県の農林水産業や農山漁村について関心を深めるきっかけともなるグリーン・ツーリズムを推進します。
12	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	多くの都会人の移住のために、農村に菜園付きマンション建築の検討をお願いしたい。本取組については、コロナ対策にもなる。	1	〔その他〕 都市からの移住促進については、本文76ページに記載しているように、田園回帰、定住を志向する都市住民等を対象に、遊休農地等を活用して農業を楽しむための農園整備や空き家改修に対する支援を実施します。
13	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	農村地域について様々な発展の方向性を書いてあるが、「誰が実務を実行する権限があるのか」を明確にして欲しい。 例えば農地の集積には体制が書かれているが大区画化には誰がするかが書かれてない。現場ではこれが問題で、責任の擦り付け合いが起こって進まない。農地、農業インフラについては2030年に向けて全部担い手耕作者に権限を移して行って欲しい。	1	〔具体の施策の参考とします〕 農地の集積・集約化の推進および大区画化については、本文50ページに記載しております。 いただいた意見については、今後、具体の施策を推進する上で参考にさせていただきます。

パブリックコメントの概要と県の考え方(暮らし)

項目等	意見等の概要	件数	県の考え方
1 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	楽農について、コロナ情勢下においてリモートワークが広がり、人口が都市に集中する必要性が薄れた。在宅ワーク中のすきま時間や自然に触れてリフレッシュしたいときに気軽に家庭菜園や農業体験ができる楽農の概念がもっと広まれば、担い手不足解消にもアプローチできる。また、観光地に行くのではなくその土地の産業の手伝いを通して現地の人と交流できるようなツアーが広まれば面白い。	1	〔既に盛り込み済みです〕 農業体験等の楽農生活実践機会の創出については、本文88ページに記載しているように、気軽に、身近で楽農生活を実践する機会を拡大するため、市民農園、直売所、農林漁業体験民宿など楽農生活実践施設の開設や改修を支援します。 また、観光を通じた現地の人との交流促進については、地域の観光名所や名物料理等と楽農生活の体験を県民が自由に組み合わせ、様々な楽農生活をお試しできる仕組みづくりを情報産業等と連携して行えるよう支援します。
2 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	田園回帰、農村部への観光推進について、人々がお金を落とす「宿泊」「食事」「体験」の三つすべてが回るように推進する必要がある。マップなどの周辺情報を各店舗やホームページに掲載したり、割引券等を配布したりすることが経済の活性化につながる。コロナ禍ではこのような観光推進戦略を積極的に行うことが重要になってくる。	1	〔具体の施策の参考とします〕 農村部における観光推進戦略の立案・実践の推進については、本文90ページや91ページに記載しているように、旅行者や情報産業との連携による地域資源の掘り起こしや旅行ツアーの企画、受け入れ体制づくりなどの支援に取り組みます。 いただいたご意見については今後の施策を推進する上で参考にさせていただきます。
3 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	楽農生活の推進について家庭菜園規模よりは大きく大規模経営には満たない小規模の田畑においても、主婦や兼業農家、元気な高齢者が楽農することを推進する視点をビジョンに加えていただきたい。	1	〔既に盛り込み済みです〕 楽農生活の推進については、本文88ページに記載しているように、楽農生活の意義への理解促進やきっかけづくり、ライフスタイルとしてイメージをしやすくするため、居住地や世代等ごとの実践例や実践者からのメッセージを各種媒体を通じて発信します。 また、気軽に、身近で楽農生活を実践する機会を拡大するため、市民農園、直売所、農林漁業体験民宿等楽農生活実践施設の開設や改修を支援します
4 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	新型コロナウイルスの流行によって、田舎や農村への観光に興味を持つ人が増加した。そのような人に向けて、田舎でしか体験できないアクティビティの環境を整え、農家民宿で農業体験ができる環境をつくることもきっかけ作りとして効果のある施策だ。	1	〔既に盛り込み済みです〕 農村部等への観光客誘致に向けた農業体験ができる環境整備の推進については、本文88ページに記載しているように、農林漁業体験民宿等楽農生活実践施設の開設や改修を支援します。 また、地域の観光名所や名物料理等と楽農生活の体験を県民が自由に組み合わせ、様々な楽農生活をお試しできる仕組みづくりを情報産業等と連携して行えるよう支援します。
5 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	グリーンツーリズムの推進について新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況もあり、周りの同世代のグリーンツーリズムへの関心が高まっていることを実感する。そういった若者がグリーンツーリズムを気軽に探することができるサイトやアプリがあると、行動に移しやすい。地域や価格帯、内容などでグルーピングし、より自分が望むツアーとマッチングできるようなツールが望まれるし、もしすでにあれば広報をしていくべきだ。	1	〔既に盛り込み済みです〕 アプリ等を活用したグリーンツーリズムの推進については、本文91ページに記載しているように、旅行者や情報産業等との連携による地域資源の掘り起こしや、旅行ツアーの企画、受け入れ体制づくり等の取組を支援します。
6 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	グリーンツーリズムの推進で、コロナ禍で田園回帰志向になっているからこそ、感染防止の対策も同時に行い、事業者には感染予防の支援を実施してほしいと考える。農村地域には、多くの高齢者が居住している。都市住民からのコロナウイルス感染がおこらないよう、支援をしてグリーンツーリズムを推進してほしい。	1	〔具体の施策の参考とします〕 コロナ禍にあっては感染対策は必須だと認識しています。今後、具体の施策を推進する上で参考にさせていただきます。
7 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	観光分野の連携強化について、オンラインツアーやバーチャルツアーなどを実施してもいいのではないかと。「3密を避けることができる」「移動が不要」「遊休施設・人材が活用可能」といったメリットがある。インターネットを通じて潜在的な旅行者に無形の観光体験を伝えることができ、特にリアルな旅の目的地を決めるときに、オンラインでの体験が決定的になり得る。	1	〔具体の施策の参考とします〕 オンラインツアーやバーチャルツアーなどの実施については、今後、具体の施策を推進する上で参考にさせていただきます。

8	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	県産県消の推進について、一人ひとりの消費行動をどう変えていくかがポイントだと思うので、まずは学校から、地域から、活動を広げていこう、支援が必要である。	1	<p>〔既に盛り込み済み〕</p> <p>学校や地域における県産県消の活動支援については、本文93ページに記載しているように、県・市町教育委員会等の学校給食関係者等と生産者の連携のもと、学校給食を通じて子どもたちの本県農林水産業や地元食文化への理解促進を推進します。</p> <p>また、「おいしいごはんを食べよう県民運動の推進」として、県内の団体、企業、行政等が連携し、啓発活動やインターネットによる情報発信などにより、県民一人ひとりにごはんを中心とした「日本型食生活」の実践と県民運動への参加を促します。</p>
9	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	<p>「担い手」については、コロナの影響で農業への関心が高まった層はもちろん、未来の農業に向けて、子どもたちの農への関心を高める取組も強化する必要がある。</p> <p>当たり前前に食べている作物が作られ販売される一連の過程を実際を目で確かめ、体験することは、子どもたちの農や食への関心を高めると考える。</p>	1	<p>〔既に盛り込み済み〕</p> <p>子どもたちに農への関心を高める取組の強化については、本文88ページ、93ページに記載しているように、農林漁業体験機会の提供や学校給食を通じて本県農林水産業や地元食文化への理解を促していきます。</p> <p>また、「ひょうごの酪農」への理解醸成活動として、子牛へのほ乳体験や酪農家による出前授業のイベント等、子どもたちと農がふれあえる機会を創出する取組を推進します。</p>
10	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	地域の観光名所や名物料理等と楽農生活体験を県民が自由に組み合わせ、様々な楽農生活をお試しできる仕組みづくりを行うというのがとても面白い。地方移住はハードルが高くなかなか踏み込めないが、週末だけ田舎に訪れ農作業を楽しみたいという二地域居住を志望する人も多くいるので、そのような人たちに農業の楽しさを感じてもらいつつ、地域の魅力も知ってもらえることができれば一番いいと思った。	1	<p>〔既に盛り込み済み〕</p> <p>二地域居住を志望する人への農業の楽しさや地域の魅力の理解促進については、本文89ページに記載しているように、兵庫楽農生活センターの機能強化により、魅力ある体験プログラムの提供や楽農生活実践方法の提案等に取り組みます。</p> <p>また、企業・市町等との連携のもと、農園整備や空き家改修支援を推進するとともに、自家菜園講座の開設支援など田舎暮らしの充実を図ります。</p>
11	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	大都会に隣接する横浜市では農とふれあう場づくりとして農体験教室の開催やアグリツアー、市民農園の開設に積極的に取り組んでおり、いずれも5ヶ年目標を達成している。このような活動を通して都市に住む子どもであっても農業を身近に感じることができ、将来農業に興味を持つ子どもを増やすことにもつながると思う。	1	<p>〔具体の施策の参考とします〕</p> <p>都市部の子どもと農がふれあう場づくりの推進については、本文88ページに記載しているように、次代を担う若い世代に食と「農」の役割や楽農生活の意義を伝えるため、農林漁業体験機会の提供、給食への県産農林水産物活用等の支援に取り組みます。</p> <p>いただいた横浜市の事例についてのご意見については、今後、具体の施策を推進する上で参考にさせていただきます。</p>

パブリックコメントの概要と県の考え方(その他)

項目等	意見等の概要	件数	県の考え方
1 第1章 農林水産ビジョンの策定にあたって	兵庫県農林水産ビジョンにおいて自分自身がどの立場にいるのか県民一人ひとりが把握できるといいと感じた。兵庫県内の大学生の中で自分自身が兵庫県の農林水産業について認知していて、日常生活と「農」の連携を理解している者はほとんどいないだろう。	1	〔既に盛り込み済みです〕 農林水産ビジョンにおける県民一人ひとりの位置付けについては、本文2ページに記載しているとおり、「全ての県民の食と「農」」に関する行動指針となるべきもの」としています。
2 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	スマート化について、農林水産分野では少子高齢化による担い手不足や負担の増大は大きな課題。そのためにスマート化に注力することはかなり有効である。開発や導入にコストがかかるかもしれないが、長期的なスパンでみると労働者の負担軽減はもちろん「泥臭い」「大変そう」といった若者のイメージも変わり、担い手が増えるかもしれない。また、最新機器を農林水産業に導入する事例が増えるとIT事業を行う会社が新たに参入し、より活発になる可能性もある。また、スマート化により生産した産物はブランドینگにもつながる。SDGsといった持続可能な開発とマッチするとかなりの見込みがあると感じた。	1	〔既に盛り込み済みです〕 スマート化による労働負荷の軽減や若者のイメージ変化については、本文37ページに記載しているとおり、スマート化による作業の省力化など生産性の向上と製品の高品質化等に取り組めます。また、デジタル機器を日常的に使いこなす若い世代を呼び込み、スマート農業技術の活用を促進するため、JAや兵庫県農業機械化協会など関係機関との協体制のもと、産地等への働きかけや技術支援に取り組めます。 なお、ご意見いただいたSDGsとの関連については、本文36ページに記載しています。
3 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	例えばスーパーで買い物をする際に兵庫県産の野菜を買ってみること、例えば兵庫県の名産の農林水産物が気になってスマートフォンで少し調べてみる。こういった日常の些細な行動でも、兵庫県の農林水産業への確かな関心であると私は考える。こういった関心を自分自身で認知させること、そして広げていく工夫が求められるのではないかと考える。	1	〔既に盛り込み済みです〕 兵庫県農林水産業への認知や関心を広げていく工夫については、本文92、93ページに記載しているように、「県産農林水産物の購入機会の拡大」をはじめとする取組を推進していきます。
4 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	ひょうご農林水産ビジョン2030の新たな視点として特筆されている1～6の事項について該当ページが表示されているが、目次だと勘違いしてしまうため、わかりやすくデザインした方がよい。	1	〔ご意見を反映しました〕 ご意見を踏まえ、本文32ページに記載している「ひょうご農林水産ビジョン2030の新たな視点」の部分については、今後、デザインを工夫して冊子を作成します。
5 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	「ECサイトの販路拡大」に取り組む際には、食材・食品の安全性にどのくらい重点を置いて販売できるかがかなり重要になる。	1	〔既に盛り込み済みです〕 ECサイトによる販路拡大については、本文70ページに記載しているように、県内で生産され安全・安心で個性・特長がある兵庫県認証食品をはじめとする本県産品の販路拡大を支援します。
6 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	食材・食品の高品質を保つことが大前提にあり、その上に生産性向上に向けたスマート化、販路拡大の検討がなされるべきだと考える。	1	〔既に盛り込み済みです〕 食材・食品の高品質化については、本文37ページに記載しているように、スマート化を行う目的のひとつです。また、本文69ページに記載しているように、販路拡大等のためブランド化を推進する上でも必要な取組を推進していきます。
7 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	現在構築されている施策にもう少し高品質化や品質維持に関する施策が盛り込まれると、スマート化や販路拡大の基礎となる部分を強化できるのではないかと考える。	1	〔具体の施策の参考とします〕 高品質化等施策のさらなる盛り込み等が必要とのご意見については、今後、具体の施策を推進する上で参考にさせていただきます。
8 第6章 めざす姿を実現するための施策展開	農林水産という性格上一次産業分野の基盤の充実が必要だが、二次、三次分野にどのような施策を展開するかによって、ビジョンが大きく変わる。その点からいえば、流通・消費面への踏み込みが少し弱い。	1	〔具体の施策の参考とします〕 二次、三次分野への施策の展開については、本文71ページに記載しているように、異業種連携や6次産業化の取組を推進します。 流通・消費面への踏み込みが必要という意見については、今後、具体の施策を推進する上で参考にさせていただきます。

9	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	次世代を担う担い手、労働力不足への対応としての人員の確保をインターネットサイトを通じて行うことは若者の目に留まりやすく良い施策だと感じた。さらに、SNS を使って農林水産業の楽しさや、兵庫県への貢献度を発信することで新たに興味を持って関心を寄せてくれる人が増えるのではないかと考える。最近では、多くの企業や団体がInstagram などを使って求人を募っているのが有効的だと考えた。	1	〔既に盛り込み済みです〕 人員の確保に向けたインターネットの活用については、本文49ページに記載しているように、求人サイトを活用した求人・求職マッチングなどにより、地域内外からより多くの人材が地域農業に関わる事が出来るようにすることで作業ピーク時の人員不足の解消へつなげます。
10	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	本県は地域特産物も種類が多く多様性に富むが、少量・多品目でロットがまとまらず、ブランド化や流通・販売面で弱点を抱えている。県内に数か所程度、広域的に多品目を取り扱う集出荷施設の設置などを検討すべきではないか。	1	〔具体の施策の参考とします〕 広域的に多品目を取り扱う集出荷施設の設置については、今後、具体の施策を推進する上で参考にさせていただきます。
11	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	神戸ビーフや山田錦、淡路島たまねぎ等々、全国的に有名な県内ブランドはあるが、広い県内の地域農産物の中にはブランド化を進めることで、生産・販売につながるものがある。生産・流通の各団体とともにブランド化を進め、さらにPRしていただきたい。	1	〔既に盛り込み済みです〕 地域農産物のブランド化については、本文71ページに記載しているように、各地域の特産品や需要拡大が見込める隠れた品目に対して、生産拡大に向けた支援を行います。 加えて、類似特産品との差別化や兵庫県認証食品への誘導、GI等取得の支援を行い、各品目や商品の高付加価値化、ブランド化を推進します。
12	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	高齢化の進行や担い手の減少が進み現在多くの高齢者が農業、畜産業、林業、漁業を担っているが、スマート農業、スマート畜産業、スマート林業、スマート漁業を高齢者がみな十分に使いこなせるとは思わない。それらを使いこなすことができる人、世代から普及していくということになる。そうすると、多くの高齢者たちが仕事をなくすことになりそうと少し心配。スマート化自体はとても素晴らしいことだと思う。	1	〔既に盛り込み済みです〕 高齢化が進む中でのスマート農林水産業の普及については、本文37ページに記載しているように、民間メーカー等との連携による情報発信や、普及指導員及びJA営農指導員等の指導力の向上等を図ることにより、生産現場での支援体制を強化します。 また、スマート機器の共同利用やJA出資法人等への作業委託など、生産者の負担が軽減され取組を支援していきます。 さらには、簡易に扱えるスマート機器の導入等も検討していき、生産性の向上、産品の高品質化を図っていきます。
13	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	朝来市でのワークショップに参加し、地域の農業の現状を聞く機会があった。特に聞かれたのは、「耕作放棄地」と「担い手」の問題。小規模でやっていた方は一定数おり、知識がないことで躊躇われる方が多いという意見があった。個人・小規模農業を地域ぐるみで考え、その先の販売方法の工夫や販路を整える支援が求められている。「地域運営組織」等の組織が、課題解決の役割を担う可能性があると考え。	1	〔既に盛り込み済みです〕 地域ぐるみでの個人・小規模農業の支援については、本文52ページに記載しているように、地域のコミュニティが家族経営など小規模経営体を支える地域支援型農業(CSA)などにより、小規模であっても経営が持続する仕組みの構築を推進していきます。
14	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	五国の違いを活かした、それぞれの地域の特産品のブランド化、PRが必要。それぞれの地域にまだ広く知られていない多様な特産品がある。兵庫県の食の豊かさをまずは県民が知る機会提供が必要。その一つに、「都市農村交流」の充実が考えられる。県内の都市部と農村部の地域間での交流によって、人だけでなくモノの行き交いも促進されると考える。	1	〔既に盛り込み済みです〕 五国の違いを活かした地域の特産品のブランド化については、本文69ページに記載しているように、既存ブランドの強化と地域の特産物等に光をあて、「地域で知られたお宝」を新規ブランドとして育成し、県域・国内・海外等の販売エリアに適した販路拡大・開拓を支援します。 また、食の豊かさを知る都市農村交流の充実については、本文76ページに記載しているように、田園風景や地域のお祭り、史跡といった地域固有のものを地域資源として発掘して、都市部との交流に活用する取組等を進めます。
15	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	農福連携で、障がい者支援施設や引きこもりの支援施設等と受け入れる農園・農業法人の両者に対する支援に力を入れていただきたい。 マッチング支援や農園等が受け入れるために設備投資が必要な場合の支援などをお願いしたい。	1	〔既に盛り込み済みです〕 農福連携に関する福祉施設と農業者への支援については、本文90ページに記載しているように、県福祉部局と連携して、農業者側、福祉側の双方の情報等を集約して提供するワンストップ窓口を設置して推進します。 また、農福連携に意欲を持つ農業者に対しては、先進的な農福連携の取組事例について情報提供するとともに、福祉事業所とのマッチングなど、実践に向けた取組につなげます。 また設備投資についても、国の事業等も活用しながら支援を行います。

16	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	近年、太陽光発電設備への農地転用が増加しているが、設置後の近隣とのトラブルや適正に撤去されるのかなどの懸念があるため、現行の条例で規定する事業面積5000㎡よりさらに引き下げていただきたい。	1	〔その他〕 太陽光発電施設等と地域環境との調和に関する条例に基づき、適正な取組を進めていきます。
17	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	後継者を得るためには生産者の所得を増やすことが必要であり、そのためには特産品を生み出すことが最も効果的。兵庫には但馬牛、山田錦、丹波黒など素晴らしいブランド農畜産物があるが、もっと見つけ出すために知恵を絞る必要がありそう。	1	〔既に盛り込み済みです〕 新たなブランド農畜産物の発掘については、本文69ページに記載しているように、ブランド戦略の展開のひとつとして、地域の特産物等に光をあて、「地域で知られたお宝」を新たなブランドとして育成する取組を進めていきます。
18	第6章 めざす姿を実現するための施策展開	「ひょうご食品認証制度の推進」に関して、健康に配慮しかつ個性や地域性があるなど、設定されている条件が面白いが、平成16年から実施されているにも関わらずあまり見聞きしたことがない。約2000食品と多くの食品が認証されているので、流通により力をいれ、消費の拡大をはかることができれば、兵庫の美味しい食べ物を世の中により広めることができるのではと期待している。	1	〔既に盛り込み済みです〕 兵庫県認証食品の流通拡大については、本文69ページに記載しているとおり、認証食品を試食・販売するイベントの実施や、量販店等での認証食品販売コーナーの設置や実需者とのマッチング等により、購入できる機会の拡大を進めていきます。 また、ECサイトの活用等による認証食品の販売拡大など、多様なチャンネルの活用も推進してまいります。